

灰星病 (Brown rot)

Moinlinia fructicola



灰星病菌による春先の花腐れの様子

発生生態

病原菌は枝に付いた病斑や被害を受け落果した果実で越冬します。春になると、初めは蕾や花に感染して花腐れ症状を示します。その後、果実にも伝染するようになり、果実に付いた病斑から次々と伝染が繰り返されます。

防除対策

前年の被害果は園外へ持ち出し、菌の密度を低くすることが大切です。また、当年の花腐れ症状や発病した果実は見つけ次第、園外へ持ち出し処分します。

薬剤による防除は、開花期前後と収穫前20日頃に散布することが重要です。